

## 施設整備費(本設費用)の試算

### 〈施設整備費のポイント〉

- すでに使われている施設を今後も使っていくための更新・改修のみを実施し、大会のためだけの新しい施設は設けない計画とします

オリンピック・パラリンピックの夏季大会と冬季大会では、競技数や会場数、参加選手数といった大会の規模が大きく異なります。さらに現在の計画では、都心の近くでウィンタースポーツを楽しめるという札幌の特徴を活かし、できる限り今ある施設を使用し、大会を実施することとしています。

現在、大会で使用を想定している施設の中には老朽化が進んでいるものもあり、これらの施設は大会の開催有無に関わらず、延命化や更新を行っていく必要があります。

今回の施設整備については、大会を契機により長く活用

できるような改修を想定しており、その費用として、770億円と試算しています。

札幌市が所有する施設の更新・改修については札幌市が実施し、現行制度に基づいて国の交付金等を活用していくことも想定しており、その場合の実質負担額は490億円と試算しています。

なお、大会のために整備し、大会終了後に撤去する整備費用は大会運営費(組織委員会予算)の仮設費に計上しています。

施設整備費合計	札幌市実質負担額
770億円	490億円

札幌市所有の施設の建て替えや改修のための費用として札幌市が負担(一般財源+市債)するもの

### ・主な施設整備・

#### 【新月寒体育館】400億円(札幌市負担:220億円)

月寒体育館を建て替えることにより、プロスポーツの観戦環境を充実し、スポーツを「みる」機会を拡充する。

また、屋内スポーツの国際大会の誘致機会を拡大できるとともに、市民が利用できる環境を創出する。



#### 【大倉山ジャンプ競技場】90億円(札幌市負担:90億円)

大倉山ジャンプ競技場にノーマルヒルを併設してリニューアルを行うことにより、国際大会の誘致を促進するとともに、観光施設としての魅力アップを図る。



#### 【市営住宅月寒団地】190億円(札幌市負担:110億円)

月寒地区の市営住宅を集約して建替え、大会時には選手村として活用し、大会後に市営住宅として引き続き使用する。





## 各会場の施設整備費

○札幌市が独自に試算したもので、今後変更することがあります。

○施設ごとに10億円未満を四捨五入して記載しておりますが、10億円以下の施設については、億円で記載しているため、合計が一致していません。

単位：億円

会場	競技種目等	総額	札幌市実質負担額	
			札幌市実質負担額	その他
<b>【競技会場】</b>				
西岡バイアスロン競技場	バイアスロン パラバイアスロン/パラクロスカントリースキー	2	0	2
長野市ボブスレー・リュージュパーク	ボブスレー・ボブスレー ボブスレー・スケルトン/リュージュ	0	0	0
月寒体育館	カーリング 車いすカーリング	0	0	0
新月寒体育館	アイスホッケー 1 パラアイスホッケー	400	220	180
真駒内公園屋内競技場	アイスホッケー 2	4	0	4
スポーツ交流施設コミュニティドーム(つどいむ)	スケート・フィギュアスケート スケート・ショートトラック	1	1	0
帯広の森屋内スピードスケート場	スケート・スピードスケート	0	0	0
大倉山ジャンプ競技場	スキー・ジャンプ スキー・ノルディック複合ジャンプ	90	90	0
白旗山競技場	スキー・クロスカントリースキー スキー・ノルディック複合クロスカントリー	7	7	0
ニセコエリア	スキー・アルペンスキー(滑降、スーパー大回転、複合) パラアルペンスキー	0	0	0
サッポロテイネスキー場	スキー・アルペンスキー(大回転、回転)	0	0	0
札幌国際スキー場	スキー・フリースタイルスキー/スキー・スノーボード (スロープスタイル、パラレル大回転、クロス) パラスノーボード	0	0	0
さっぽろばんけいスキー場	スキー・フリースタイルスキー/スキー・スノーボード (ハーフパイプ、モーグル、エアリアル)	0	0	0
市内既存施設	スキー・フリースタイルスキー/スキー・スノーボード (ビッグエア)	0	0	0
<b>【非競技会場】</b>				
札幌ドーム	開会式/閉会式/メダルプラザ	20	10	10
札幌コンベンションセンター	メインプレスセンター	0	0	0
新展示場	国際放送センター	0	0	0
市営住宅月寒団地	選手村	190	110	80
アパホテル & リゾート(札幌)	選手村	0	0	0
<b>【用地取得】※交渉中のため内訳は非公表</b>				
用地取得		60	50	10
<b>合 計</b>		770	490	280